

表題：研究計画書の作成	
(自分用の題目：大学院に合格するための研究計画書の書き方を調べる)	
	名前 一発 合格
<p><b>研究の背景：</b>一般的に言って大学院受験のための研究計画書の書き方は難しいとされている。④その理由として次の二点が挙げられる。第一に、研究計画書を書いたことがない。第二に書いたことはあると思うが、忘れてしまっている。この二点の問題を解決して研究計画書を書き上げるには、参考になる文献等を読み、とにかく一度書いてみることから始めることである。できあがった(途中で良い)研究計画書は第三者(友人や先輩、あるいは同僚を含む)の評価をあおぐ。評価が満足できるならば目的達成が可能である。</p>	
<p><b>研究の目的：</b>希望する大学院に合格することが、初期の目的である。ところが文章を書き進めると、前項の内容が頭から離れないので、研究計画書を書くことが目的になってしまう。これは一ランク下の目的であり、研究計画書ができた時点で目的が達成されることになり、合格には及ばないことになる。そのためにも目的を明確にしておくのである。つまり、表題に書いた初期の目的を忘れないようにすることが大切なことである。</p>	
<p><b>研究の方法：</b>Web ページで次の 5 個のキーワード、「研究計画」「書き方」「作成」「大学院」「入試」④を単独、あるいは組み合わせて入力し、研究計画書に関する内容について書かれているページを検索する。次にページにアクセスをし、研究計画書を作成するのに必要かつ十分な内容④の書かれているページを見つけ、目的に沿っているかを吟味する。目的に沿っていると考えられる場合、内容を熟読した後、研究計画書を書き始める。</p>	
<p><b>結果予測：</b>前述した方法を用い研究計画書を作成した場合、形式的(特に文字数、書式)には研究計画書らしき書面になることは間違いない。内容に関しても第三者の力を借りることにより、一人では難しいことであっても可能となり、希望する大学院に十分合格できる内容の研究計画書が書けるであろう。内容および形式が研究計画書として十分となれば、他の受験科目をクリアして、大学院合格の喜びを味わうことになるであろう。</p>	
<p><b>研究の意義：</b>大学院合格に至るための研究計画書を書くという目的を達成したならば、目的とする大学院合格の目的を達成することになる。合格した場合、大学院で学び、研究活動ができることになる。これは自分にとっても職場にとっても意義深いことである。</p>	
<p><b>参考文献：</b></p> <p>[1] 研究計画書の書き方。一発合格。2008, 1, 1-3</p> <p>[2] キーワードのつけ方。一発合格。2008, 2, 11-15</p> <p>[3] 内容の妥当性について。一発合格。2008, 3, 16-20</p>	

**コメント [k1]:** 初期の目的(大学院に合格すること)を忘れないためと、面接用の題目を書いておく。提出時は消すこと。

**コメント [k2]:** 問題点を掲げ、その解決法を提案する。240 文字

**コメント [k3]:** 本来の目的を忘れないように。195 文字

**コメント [k4]:** 方法は誰にでも追試ができるような内容であること。具体的に書くこと。204 文字

**コメント [k5]:** 予測であるので、内容は仮定でよい。ダメ押しも必要である。197 文字

**コメント [k6]:** 目的より一段上の目的を意義とすると書きやすい  
118 文字(本文のみで 954 文字)

**コメント [k7]:** 分けて書く 94 文字。全部で 1048 文字(表題、氏名などは含まない)